

令和2年度（第64回）

# 岩手県教育研究発表会

## 新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を 図るカリキュラム・マネジメント

～学校段階等間の接続の視点に立って育む資質・能力～

多数のご参加ありがとうございました。

2月9日（火）・10日（水）に、花巻温泉、総合教育センター及び生涯学習推進センターを会場として、第64回岩手県教育研究発表会を開催しました。新型コロナウイルス感染予防のため、各会場の定員を制限するなど、感染予防対策を行った上で、県内から2日間でのべ1,900名を超える参加者を迎えての開催となりました。

1日目の全体会では、明星大学 吉富 芳正 教授による講演会と、その後、吉富教授を講師として、総合教育センター 岩井 昭 所長がコーディネーターを務め、会場協議を行いました。

全体会は、5会場をオンラインでつないで実施しました。講演会では、吉富教授から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの充実について、中学校区や市町村単位で学校段階等間の接続の視点に立った具体的な取組事例を交えながら講演をいただきました。

会場協議は、今年度のカリキュラム・マネジメントの現状について、Google Form を使って、各会場の参加者に質問に答えただきながら行いました。5会場の参加者からの回答が瞬時に集計され、その結果を基に各会場から学校の取組についてご発言いただきました。最後に吉富教授から、今後さらにカリキュラム・マネジメントを充実させていくポイントとして、当該学年だけでなく学校全体で学校段階等間の取組を進めることが重要であることをご助言いただき、今後の方向性を共有する機会となりました。

今年度の特設分科会は、本県の教育課題を踏まえた特設1「学力向上」、特設2「校種間におけるカリキュラム・マネジメント」、特設3「生徒指導」、特設4「小学校プログラミング教育」、特設5「コミュニティ・スクール」の5つを設定しました。

特設分科会1「学力向上」では、「子どもの姿でつなぐ授業改善」をテーマに異校種縦断・教科横断の視点による組織的な取組について、大槌町教育委員会、県立大槌高等学校より実践発表していただきました。岩手県教育委員会事務局学校教育課 菊池 一章 学力向上課長から講話をいただき、子どもの資質・能力を育む、「主体的な学びを充実させる授業のあり方」などについて理解を深める機会となりました。

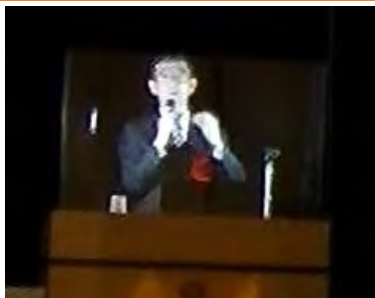
全体会には487名、特設分科会1は161名、特設分科会2は107名、特設分科会3は66名、特設分科会4は67名、特設分科会5は102名の参加者を得て、大変充実した内容となりました。

分科会では、各教科領域・教育課題等15分科会において、85主題の授業実践、研究成果が発表されました。講演会やパネルディスカッション等を位置付けた分科会もあり、興味深い新たな知見を学んだり喫緊のテーマについて、協議したりするなど、大変充実したものとなりました。それぞれの発表の成果が、これからの岩手の教育の充実につながることを期待しております。

ご多用の中、講演講師、パネリスト等を務めていただきました皆様、研究発表いただきました発表者の皆様、そして、発表者を推薦していただきました各教育関係機関、企画展に出品していただきました各学校、さらに、運営に当たってご支援とご協力を賜りました花巻温泉のスタッフの皆様をはじめ、関係各位に心から感謝を申し上げます。

## 全体会（講演会、会場協議）

### 講演会



明星大学教育学部  
教授 吉富 芳正 氏

講演では、明星大学 吉富 芳正 教授をお招きし、「新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図るカリキュラム・マネジメント～学校段階等間の接続の視点に立って育む資質・能力～」と題し、ご講演いただきました。

文部科学省カリキュラム・マネジメントアドバイザーでもある吉富教授は、カリキュラム・マネジメントを「学校教育目標を実現するため、教育活動と経営活動とを関連付けて教育の質を高めていく営み」ととらえ、幼小中高、特別支援学校の各校種におけるカリキュラム・マネジメントの取組とその重要性について、分かりやすく解説していただきました。

また、県外小中学校の実践例や参考図書についても紹介していただきながら、学校段階等間の接続について理解を共有する機会となりました。さらに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、学校単位だけではなく、中学校区や市町村単位で学校段階等間をつなぐという意識をもって、カリキュラム・マネジメントに取り組む具体の手順について、事例を挙げてご教示いただきました。

会場協議では、「カリキュラム・マネジメントの現状と課題」をテーマに、今年度の各校での取組を振り返り、5つの会場から参加者の皆さんにQRコードを使い、Google Formから回答していただいた結果を受けて、各会場から学校の実践についてご発言いただきました。

1つ目の質問は「コロナ禍で苦労した学校行事を選択肢（ア 修学旅行、イ 運動会・体育祭、ウ 学習発表会・文化祭、エ PTA 行事、オ 授業参観）から3つ選んでください」でした。具体的な取組についてご発言いただき、①県内で実施予定だった修学旅行を生徒・保護者のアンケート等から最終的に実施できないと判断したケース、②修学旅行の代替として、2月に県内の研修旅行を実施するに至ったケース、③文化祭を生徒の意見も聞いた上で中止したが、運動会は中止せずに小中合同で実施したケースなどが紹介されました。

2つ目の質問は「特別支援学校も含めた幼小、小中、中高の学校段階間で例年取り組んでいる連携・交流を選択肢（ア 新入生に関する情報交換、イ 交流学习・合同学習、ウ 教員の乗り入れ授業、エ 教員の交流、オ 児童生徒の交流・生徒による出前授業）からすべて選んでください。」でした。各会場からのご発言では、①9年間通した学力向上の取組と、校種間の教員の交流の実践、②中学校区で年2回行われている授業参観による小中学校教員の交流の実践、③小中一貫校の準備を進める中での取組などが紹介されました。会場の皆さんの積極的な回答への参加と、ご発言をいただくことができました。

最後に、講師の吉富教授からは、地域に根差し、児童生徒に関わりながら学校段階等間の取組を進めている事例について評価していただきました。今後のカリキュラム・マネジメントを推進していくポイントとして、資質・能力を確実に育成することが目的であることを明確にすること、当該学年だけではなく、学校全体で学校段階間の接続の視点に立って取組を進めることの重要性をご指摘いただき、今後の方向性を共有する機会となりました。



サテライト会場  
(生涯学習推進センター セミナーホール)



メイン会場  
(ホテル千秋閣 グレイトホール瑞雲)



サテライト会場  
(総合教育センター 大会議室)

## 特設分科会 1 「学力向上」



岩手県教育委員会では、「つまずきを生かした一人ひとりを伸ばす授業改善を重点目標とし、「確かな学力育成プラン」を進めてきました。

特設分科会1では、「子どもの姿でつなぐ授業改善」をテーマとし、異校種縦断・教科横断的視点による組織的な取組について、大槌町教育委員会、県立大槌高等学校より実践発表していただきました。各学校が自校の取組を振り返り、将来に向けて、本県が目指す授業のあり方を見つめ直し、共有することができました。

### <趣旨説明>

学校教育課 指導主事 山本 克哉

### <説明>

「確かな学力育成プロジェクトについて」

学校教育課 指導主事 田村 大樹

### <発表>

「9年間を見通した「確かな学び」の保障

～チーム大槌による学力育成プロジェクトを通して～

大槌町教育委員会 指導主事 和田 裕之

大槌町立大槌学園 教諭 藤原 英史

「高校魅力化がもたらしたもの ～探究活動で学力は伸びるのか?～」

大槌高等学校 副校長 志田 敬

魅力化推進員 起塚 拓志

魅力化推進員 三浦 奈々美

### <講和>

「岩手の学力向上が目指す姿と授業について」

学校教育課 首席指導主事兼学力向上課長 菊池 一章

## 特設分科会 2 「校種間におけるカリキュラム・マネジメント」



校種間での円滑な学びの接続を図り、児童生徒の資質・能力を育む一貫性のある教育の推進が求められています。

特設分科会2では、目指す子供の姿を共有し、学校や地域の実態や特色を生かした校種間連携に取り組んだ実践発表等を通して、校種間におけるカリキュラム・マネジメントの可能性と、成果を生むための工夫の視点について考える機会となりました。

また、岩手大学 田代 高章 教授から「『岩手だからこそできる教育、やるべき教育』を実現するためのカリキュラム・マネジメントの在り方」と題した講演をいただき、各校の特色ある学校づくりの推進に向けて、考えを深めることができました。

### <発表1>

「校内組織をいかすOJT推進の手立て～育成指標を踏まえた研修ツール開発～」

岩手大学教職大学院 現職院生 若松 優子

### <発表2>

「小中連携におけるカリキュラム・マネジメント『主体的に活動する児童生徒の育成』

～考え、表現する場の工夫を通して～

盛岡市立玉山小学校 教諭 児玉 真由美

盛岡市立玉山中学校 教諭 佐藤 圭子



<発表3>

「新設教科『地域創造学を中核とした教育課程等の開発による社会的実践力の育成 ～小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして～」

住田町教育委員会	指導主事	千葉 邦彦
住田町立有住小学校	教諭	菊池 雅子
住田町立世田米中学校	教諭	細川 遼太
住田高等学校	教諭	□ 地 均

<講演>

「『岩手だからこそできる教育、やるべき教育』を実現するカリキュラム・マネジメントの在り方」

岩手大学	教授	田代 高章
------	----	-------

## 特設分科会 3 「生徒指導」



岩手県教育委員会では、平成29年度から2年にわたり全ての児童生徒にとって通うことが楽しい魅力ある学校づくりを目指した調査研究事業（不登校の未然防止対策）に取り組んできました。

特設分科会3では、調査研究の成果について、宮古市教育委員会、第一中学校、宮古小学校、山口小学校、亀岳小学校による実践発表及びパネルディスカッションを通して成果等を紹介いただきました。また、国立教育政策研究所 小野 憲 総括研究官の講演を通して、不登校対策推進のポイントについて、理解を深める機会となりました。

<趣旨説明>

学校調整課	主任指導主事	大野 誠
-------	--------	------

<発表及びパネルディスカッション>

「宮古市の取組」、「宮古市立第一中学校区の取組」

宮古市教育委員会	指導主事	西澤 孝司
	指導主事	信夫 辰規
宮古市立亀岳小学校	校長	黒澤 みほ子
宮古市立第一中学校	副校長	加藤 浩和
宮古市立宮古小学校	副校長	菊池 伸
宮古市立山口小学校	副校長	菅原 純

<講演>

「すべての子どもたちを対象とした魅力ある学校づくり」

国立教育政策研究所	総括研究官	小野 憲
-----------	-------	------



## 特設分科会 4 「小学校プログラミング教育」



今年度から小学校でも導入された「小学校プログラミング教育」の充実を目指し、岩手県教育委員会は令和元年度に6名のプログラミング教育推進リーダーを選定しました。リーダーとなった先生方はこれまで、各所属校において授業実践を行い、プログラミング教育を推進してこられました。

特設分科会4では、九戸村立江刺家小学校の第5、6学年複式学級における算数科の実践と、奥州市立江刺愛宕小学校の第5学年図画工作科の実践を発表していただきました。

また、岩手大学 宮川 洋一 教授から助言と講演をいただき、参会者の皆さんには、プログラミング教育のねらいや意義、授業の具体的なイメージを持っていただく機会となりました。

<発表1>

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善  
～プログラミングの実践を通して～」

奥州市立江刺愛宕小学校	教諭	渡部 英
-------------	----	------





<発表2>

「論理的思考力を育むためのプログラミング教育の在り方  
～児童の発達段階に応じたカリキュラムづくりを通して～」  
九戸村立江刺家小学校 教諭 藤原正臣

<講演>

「プログラミングの教育的価値」  
岩手大学 教授 宮川洋一

## 特設分科会5「コミュニティ・スクール」



「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた有効な仕組みであるコミュニティ・スクールの導入が、県内でも進んでいます。特設分科会5では、コミュニティ・スクールの効果的な取組について、5本の事例発表が行われました。また、宮城教育大学 野澤令照 特任教授から講評をいただき、各学校における円滑で効果的な取組の充実について理解を深める機会となりました。

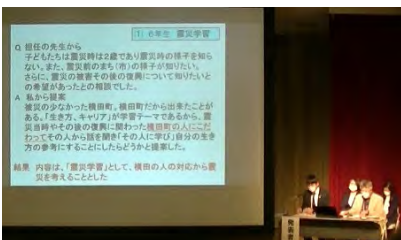
<発表1>

「北上市の目指すコミュニティ・スクール導入の在り方  
～学校運営協議会と地域学校協働本部が連携・協働し一体となって進める取組を通して～」  
北上市教育委員会 主任指導主事 村松雅彦  
北上市まちづくり部 生涯学習文化課 主任 千田由香里



<発表2>

「陸前高田市におけるよりよいコミュニティ・スクールの在り方」  
陸前高田市教育委員会 指導主事 阿部勲寿  
陸前高田市立竹駒小学校 校長 志田知美  
陸前高田市立高田東中学校 PTA会長 村上可織  
陸前高田市立横田小学校 地域コーディネーター 白川光一



<発表3>

「高等学校における地域連携の現状と課題  
～高等学校におけるコミュニティ・スクールの導入の可能性を探る～」  
岩手大学教職大学院 現職院生 川原恵理子

<発表4>

「県立学校におけるコミュニティ・スクール等の、地域と学校が連携・協働する方策について」  
高田高等学校 教諭 森谷幸恵



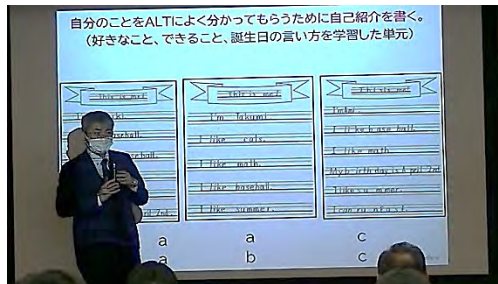
<発表5>

「西和賀高校におけるコミュニティ・スクール導入の在り方に関する研究」  
西和賀高等学校 校長 鈴木裕  
副校長 本正園子

<発表6>

「講評」  
宮城教育大学 特任教授 野澤令照

# 分科会 15 分科会実施



## 参加者の声～アンケートから～

発表会にご参加いただいた皆様に、会運営や所員等の発表内容について、アンケートを実施しました。

### <おことわり>

- アンケート回収枚数は769枚です。
- 未回答があるため、所属校種の合計はアンケート回収枚数と異なります。
- 割合の合計は、端数処理のため100にならない場合があります。

所属校種	幼稚園等 保育所	小学校 (義務教育学校前期課 程)	中学校 (義務教育学校後期課 程)	高等学校	特別支援学校	その他
上段：回答数	39	303	248	78	48	38
下段：割合%	5.2%	40.2%	32.9%	10.3%	6.4%	5.0%

全体会	名称	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数 [割合%]	講演会	227 [66.8%]	108 [31.8%]	5 [1.5%]	0 [0.0%]
	会場協議	125 [38.7%]	169 [52.3%]	29 [9.0%]	0 [0.0%]

特設分科会	分科会名	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数 [割合%]	特設1「学力向上」	74 [60.7%]	46 [37.7%]	2 [1.6%]	0 [0.0%]
	特設2「校種間におけるカリキュラム・マネジメント」	53 [58.2%]	37 [40.7%]	1 [1.1%]	0 [0.0%]
	特設3「生徒指導」	36 [75.0%]	12 [25.0%]	0 [0.0%]	0 [0.0%]
	特設4「小学校プログラミング教育」	38 [74.5%]	12 [23.5%]	1 [2.0%]	0 [0.0%]
	特設5「コミュニティ・スクール」	46 [74.2%]	14 [22.6%]	1 [1.6%]	1 [1.6%]



アンケートの  
記述から  
(抜粋)

- ・全体会は、現代的課題に対するための理念、how to を具体的な事例を通して分かりやすく説明していただき、今後の教育課程編成や、学校校種間連携に希望と喜びを持つことができたのが何よりの収穫でした。(中学校)
- ・カリキュラム・マネジメントについて、どんな風に取り組んでいけば良いのかイメージを持つことができました。吉富先生の資料、お話をわかりやすかったです。(小学校)
- ・今まで漠然と捉えていたカリマネや総合的な探究の時間について、その取り組みのエビデンスになることを様々な学び取ることができました。現分掌でも、もっと働きかけることができたのでは…と省みております。(高等学校)
- ・QRコードでの回答がすぐに結果が見える ICT の体験は大変興味深く参考になりました。ICT が整備されてきた時、自分自身が上手に活用できるようになっていたいと感じました。(小学校)
- ・校種間におけるカリキュラム・マネジメント分科会に参加させていただきました。私は病弱支援学校に所属しています。校種間にまたがった子供達が在籍する本校の子供たちが、どのように前籍校にインクルージョンされるべきか、その方策を考えたいと思います。ありがとうございました。(特別支援学校)
- ・不登校の見方が変わりました。学校で私たちがすべき事、生徒と教師のずれ、学区での連携について大変参考になりました。授業、行事等の見直す機会にもなりました。(中学校)
- ・宮古市の提案事業成果が素晴らしかったです。事業目標の新規数が成果としてはっきり見えて羨ましく思いました。単独で頑張る限界を感じた発表でした。市教委の枠組み作り、その中での特色を生かした取り組み、参考にしたいです。発表の先生方ありがとうございました。(小学校)
- ・コミュニティ・スクールについて、具体的に理解することができました。先進校の取り組みを知ることができ、良い機会でした。(高等学校)
- ・改めて小中学校や地域との関係連携の重要性を感じました。町教委と連携を密にし、成功させたいと考えています。(高等学校)
- ・事例を通しての子ども達の心の動き育ちが見られて良かった。幼小接続について、幼稚園での姿を定期的に伝えたりしながら、小学校に向けて知ってもらうことも必要だと感じた。(幼・保・こ)
- ・実際に震災や津波を小中学生時代に体験した方のお話を聞くことができ、貴重な学びとなりました。オンライン等も活用して、工夫して運営していただきありがとうございました。(小学校)
- ・10年という節目を迎え、今年この講座に参加できたことに感謝しています。今日の内容から、復興教育のこれからのについて、深く考えさせられました。被災体験を語る・聞くだけでは恐怖を植え付け、マンネリ化を招く。これからは「どう生き抜くか」について(台風等含め)学び、訓練する必要があるのだと思いました。保護者にもたくさん学んで頂きたい。そう感じました。(中学校)

★アンケートにご協力くださった皆様、大変ありがとうございました。今回のアンケート結果を来年度の研究発表会の運営や所員等の研究推進に生かしていきます。来年度も先生方の多数のご参会をお待ちしております。

[センターのホームへ](#)

©2021 The General Education Center of Iwate.